

国語 第3学年 れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校の国語の授業づくりを手伝う役です。この後に続く「すがたをかえる大豆／食べ物のひみつを教えます（第3学年）」の学習指導案を、私の学級に合わせて直してください。

先に、次の五つを一つずつ質問し、私の答えを待ってから次の質問に進んでください。まとめて聞かないでください。

一、学級の人数と、ペアやグループの組み方。

二、既習のこと。これまでに読んだ説明文と、「段落」「中心となる文」「はじめ・中・終わり」をどこまで学習してきたか。

三、この学級の子どもの実態。読むのが苦手な子、書くのが苦手な子、調べ学習に慣れているか、などの実態。

四、この単元に使える時間数と、研究授業にする時間（何時間目か）。

五、使える道具。一人一台の端末があるか、大型画面があるか、学校図書館に食べ物の本がどれだけあるか。

五つの答えがそろったら、学習指導案を次の決まりで直してください。

学習指導要領の文言、評価規準の文末（「～している」「～しようとしている」）は変えない。

教科書の本文は引用しない。段落の番号と中心となる文を入れる所は「先生が教科書から書き入れる」と書く。

時間数は私が答えた数に合わせ、削ったり足したりした時間がどれかを一覧にする。

本時の展開は、人数と道具に合わせて、活動の形（一人・ペア・グループ・全体）と使う物を書き直す。

つまりきへの手当ては、私が答えた実態に合わせて具体的に書き直す。

直した所の一覧を最後に付け、どの答えを根拠に直したかを一行ずつ書く。

文章は先生がそのまま使える言い方にし、比喻や決まり文句を使わない。

出力は、学習指導案と同じ見出しの順で全文を出してください。

直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

———ここから直す対象の学習指導案———

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 「れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう」 教材名 「すがたをかえる大豆（国分牧衛）／食べ物のひみつを教えます」

2 単元の目標

(1) 比較や分類の仕方、辞書や事典の使い方を理解し使う。幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付く。（〔知識及び技能〕(2)イ・(3)オ）

(2) 目的を意識して、中心となる語や文を見付ける（読むこと C(1)ウ）。書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える（書くこと B(1)イ）。

(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（第3学年及び第4学年の目標(3)）

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①比較や分類の仕方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。（(2)イ）

〔知識・技能〕②幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。（(3)オ）

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。（C(1)ウ）

〔思考・判断・表現〕②「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。（B(1)イ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①進んで、中心となる語や文を見付けたり、段落相互の関係に注意して文章の構成を考えたりし、学習の見通しをもって、説明の工夫を生かして食べ物について説明する文章を書こうとしている。

4 指導上の考察

（１）単元について

本単元は、説明文「すがたをかえる大豆」を読んで説明の工夫を見付け、それを生かして食べ物について説明する文章を書く、読むことと書くことを組み合わせた単元である。教材文は、「はじめ」で話題を示し、「中」で大豆をおいしく食べる工夫の事例を段落ごとに挙げ、「終わり」で筆者の考えを述べる組み立てになっている。「中」の各段落は、初めの文でその段落で説明する工夫を示し、続く文で食品の例を挙げる書き方になっているので、学習指導要領第3学年及び第4学年のC(1)ウ「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること」のうち、中心となる語や文を見付ける学習に向いている。また、事例の並べ方には書き手の意図があり、それを考えることは、書くことのB(1)イの、段落相互の関係に注意して文章の構成を考える学習にそのまま生かせる。第2学年では、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えて書く学習をしている。第4学年では、中心となる語や文を見付けて要約する学習へ進む。

（２）児童について（学級の実態を書く）

（３）指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。一つ目に、読む目的を単元の初めに子どもと決める。「自分が食べ物のひみつを説明する文章を書くときに使える工夫を見付ける」という目的を掲示し、中心となる語や文を見付ける時も、事例の順序を考える時も、この目的に戻る（C(1)ウの「目的を意識して」）。二つ目に、「中」の事例を、段落・工夫・食品・手の加え方の欄をもつ表に整理させ、比べたり分類したりする仕方を使わせる（(2)イ）。この表は、書く学習で自分が調べた材料を整理する時にも同じ形で使う。三つ目に、読む学習で見付けた工夫を教室に掲示して残し、組み立てを考える時間に、子どもが掲示を指して自分の組み立ての理由を言えるようにする（B(1)イ）。書いた文章は、はじめ・中・終わりのまとまりで段落が分かれ、中の事例の順序に理由がある物を「おおむね満足できる」状況、その理由を段落の初めの文やつなぐ言葉で読み手に示している物を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画（全12時間）

第1次 第1時：○大豆から作られる食べ物で知っている物を出し合う。○範読を聞き、初めて知ったことを書く。○学習課題「説明の工夫を見つけて、食べ物のひみつを教える文章を書こう」を決め、学習計画を立てる。 評価：態①（発言・ノート）

第2次 第2時：○文章を「はじめ」「中」「終わり」に分け、話題と国分さんの考えが書かれている所を確かめる。

第2次 第3時：○「中」の段落ごとに中心となる文に線を引く。○事例を表（段落・工夫・食品・手の加え方）に整理する。 評価：知①（表）

第2次 第4時（本時）：○事例がどのような順序で並んでいるかを、中心となる文と表を基に考え、国分さんがその順序にした理由を話し合う。 評価：思①（ノート）

第2次 第5時：○見付けた説明の工夫（段落の初めの文、事例の順序、つなぐ言葉、写真）をまとめ、自分の文章に使いたい工夫を選ぶ。 評価：思①（ノート）

第2次 第6時：○食べ物について書かれた本を読み、初めて知ったことと説明の仕方について感想を伝え合う。 評価：知②（読書記録・発言）

第3次 第7時：○説明する食べ物を選び、学習のめあてと進め方を確かめる。○選んだ食べ物について、知っていることと調べたいことを書き出す。

第3次 第8時：○本や事典で調べ、分かったことをカードに書き、同じ工夫の物どうしに分類して表に整理する。 評価：知①（カード・表）

第3次 第9時：○はじめ・中・終わりの組み立てと、中の事例の順序を考え、組み立て表に書く。 評価：思②（組み立て表）

第3次 第10時：○組み立て表に沿って文章を書き、読み返して間違いを直す。 評価：思②（文章） 態①（文章の見直し）

第3次 第11時：○書いた文章をグループで読み合い、書き方と内容のよいところを伝え合う。

第3次 第12時：○単元の学習を振り返り、読んで見付けた工夫を書く時にどう使ったかを書く。 評価：態①
(振り返り)

6 本時の指導 (4/12)

(1) 本時の目標

「中」の事例の並べ方を、段落の中心となる文と事例の表を基に考え、国分さんがその順序にした理由を、中心となる文の言葉を挙げて説明できる。(C(1)ウ)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：1 前時の表(段落・工夫・食品・手の加え方)を見て、「中」の事例を確かめる。

2 本時の問いをつかむ。

○「国分さんは、なぜこの順序で事例を並べたのでしょうか」

【めあて】中心となる文をくらべて、事例のならべ方のひみつを見つけよう。

予想される児童の反応：・大豆を食べる工夫がいくつも書いてあった。

・どの順序で書いてもいいのではないか。

・順序には理由がありそう。

指導上の留意点：・前時の表を黒板に貼る。段落の番号は使う教科書に合わせて先生が書き入れる。

・単元の初めに決めた読む目的(自分が書く文章で事例をどう並べるかを決める)を、めあての横に書いておく。

【展開】

学習活動：3 一人で、「中」の段落ごとの中心となる文を読み返し、順序を表す言葉と、工夫を表す言葉に線を引く。

○「段落の初めの文で、順序が分かる言葉はどれですか。工夫を表す言葉はどれですか」

4 事例の順序を入れ替えた表と比べ、どちらが読み手に分かりやすいかを考える。

○「もし、この段落をいちばん初めにしたら、読む人にはどう伝わりますか」

5 ペアで、並べ方の理由を、線を引いた言葉を挙げて説明し合う。

6 全体で理由を出し合い、事例の並べ方の決まりをまとめる。

予想される児童の反応：・段落の初めの文に、順序を表す言葉がある。

・大豆だと分かりやすい物から、分かりにくい物の順になっている。

・手間がかからない物から、手間がかかる物の順になっている。

・身近な物から先に書いてある。

・初めに分かりにくい物を書くと、大豆からできていると思えない。

・分かりやすい物から読むと、次の物も大豆なのかと驚く。

指導上の留意点：・線を引く前に、「中心となる文は、その段落でいちばん伝えたいことが書いてある文」と確かめる。

・順序を入れ替えた表は先生が作って配る。事例の中身は変えず、順序だけを入れ替える。

・理由が言えない子には、表の「手の加え方」の欄を上から指でたどらせ、「上の物と下の物で何が違うか」と聞く。

・「分かりやすいから」で止まる発言には「どの言葉から、そう言えるか」と返し、線を引いた言葉を挙げさせる。

・読むのが苦手な子には、「中」の段落の初めの文だけを抜き出したカード(先生が教科書から書き入れる)を渡す。

・早く終わった子には、「終わり」に書かれた国分さんの考えと事例の順序がどうつながるかを考えさせる。

【まとめ】

学習活動：7 国分さんの並べ方と、自分が書く文章で使いたい並べ方を、ノートに書く。

(型)「国分さんは、事例を…から…の順にならべている。それは、…という言葉から分かる。わたしは、自分の文章で…の順にならべたい」

【まとめ】事例は、読む人に分かりやすい順にならべてある。段落の初めの文をくらべると、そのならべ方が分かる。

8 振り返りを書く。

指導上の留意点：・まとめは子どもの言葉で作り、上の文は例として扱う。

- ・振り返りは「見付けた工夫」と「自分の文章で使いたいこと」の二つで書かせる。
- ・次時は、見付けた説明の工夫をまとめることを伝える。

評価：思① 目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。(ノート)

(3) 板書計画(縦書き・右から左へ)

縦書きで右から左へ書く。右端に日付・題名・めあて、その横に単元の読む目的(自分が書く文章で事例をどう並べるか)。中央に前時の表を拡大して貼り、事例の段落ごとに中心となる文のカード(先生が教科書から書き入れる)を順に並べ、順序を表す言葉と工夫を表す言葉に色を分けて線を引く。その左に順序を入れ替えた表を貼り、比べて出た考えを矢印でつなぐ。左端にまとめと、ノートに書く文の型。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

